

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 住之江区

学 校 名 南港光小学校

学校長名 北村 満夫

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南港光小学校では、第6学年 44名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語では、大阪市の平均正答率より1(昨年4)ポイント、全国より1.2(昨年5.6)ポイント低かった。算数では、大阪市の平均正答率より3(昨年1)ポイント、全国では3.5(昨年2.2)ポイント低かった。どちらの教科も平均正答率は大阪市と全国平均を下回ってはいたが、昨年度と比べると国語では、かなり差が縮まっている。平均無解答率は大阪市と比較すると、国語は0.2、算数は0.6上がっている。正答率は伸びているが、無解答率が上がったという結果から、児童は問題をよく読み、慎重かつ丁寧に問題と向き合い解答したことが伺われる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕「書くこと」の領域では、今年度も大阪市平均より5.3ポイント、全国平均より2.8ポイント上回っている。毎日の学習活動の中で、絵や図などを用いて自分の考えを分かりやすく他者へ伝える活動を多く取り入れた実践を積み重ねている成果であると考えられる。「読むこと」の領域は大阪市平均とわずか0.2ポイントの差で昨年度より向上が見られた。しかし、「話すこと・聞くこと」の領域は、大阪市平均より8ポイント(昨年2.3)、全国平均より8.2ポイント(昨年5.1)と差が広がっている。この結果より、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめる思考力・判断力・表現力を育てる指導の充実が必要である。

〔算数〕「図形」の領域は、今年度も大阪市平均と全国平均ともに上回っている。日頃より、ICTを活用して視覚に訴えたり、操作活動を多く取り入れペアやグループで楽しく五感に訴えたりする指導を充実させた授業により、児童理解が深まっていると考えられる。しかし「数と計算」の領域では、2.8(昨年3.6)ポイント、「変化と関係」の領域では4.9(昨年2.6)ポイント下回った。「データの活用」の領域では3.8(昨年0.8)低かった。「数と計算」の領域では、四則計算の反復練習を通して基礎基本の定着を図る取り組みにより、昨年度より差が縮まった。「変化と関係」「データの活用」の領域の向上を図れるよう学校として、数学的な見方や考え方を働かせて事象をとらえたり、思考を深めたりする学習過程を大切にしたい指導に丁寧に取り組んでいる。

質問紙調査より

児童質問紙による「自分にはよいところがあると思いますか」の肯定的回答率は86.4%で全国比より2.9ポイント高い。この結果より、児童に自己肯定感が高まってきたと考えられる。「先生は授業やテストで間違えたところや理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の肯定的回答率も95.5%で全国比より2ポイント高い。児童自ら理解できなかった問題等に積極的に取り組んでいる姿が伺われる。しかし「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的回答率は75%で昨年度値の50%と比べると向上しているが、全国比より6.8ポイント低い。また、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の肯定的回答率は59.1%で全国比より18.3ポイント低い。

今後の取組(アクションプラン)

本年度も、算数科を中心とした研究に取り組んでおり、「数と計算」の領域の平均正答率を向上させるため、タブレット端末なども活用して四則計算の反復練習することで、計算力を定着させ、自己達成感を高める指導を今後も継続していく。また、「変化と関係」「データの活」の領域を向上させるため、自分の考えを表現したり、他者の意見をもとに学びを深めたり、広げたりさせる場面を多く取り入れた授業改善をすすめる。

国語では、「話すこと・聞くこと」の領域の平均正答率を向上させるため、話す聞く場の設定の工夫や、ペアやグループでの話し合い活動を重視し、聞き手を意識した話す力を育てる。

【 全体の概要 】

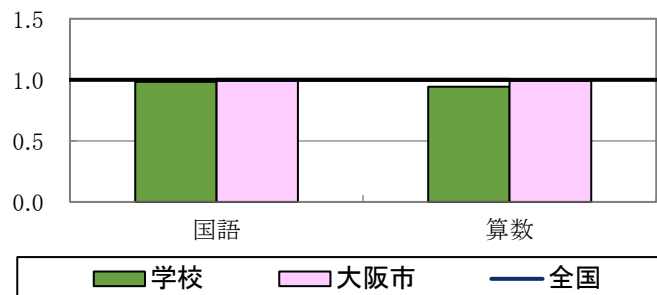
平均正答率（％）

	国語	算数
学校	66	59
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

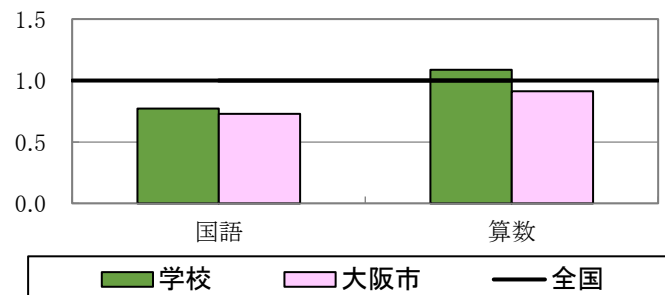
平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	3.7	3.7
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



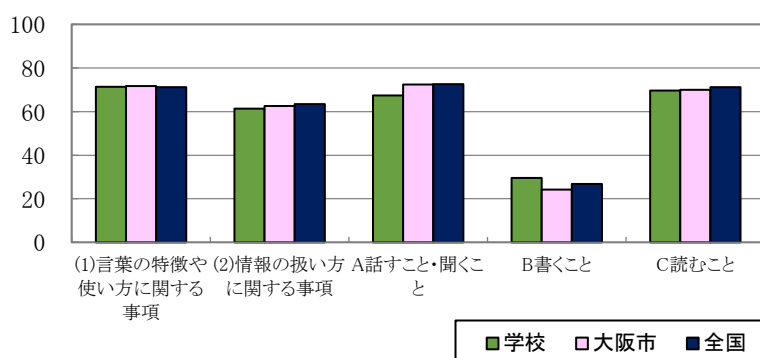
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	71.4	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	61.4	62.6	63.4
(3)我が国の言語文 化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	67.4	72.4	72.6
B 書くこと	1	29.5	24.2	26.7
C 読むこと	3	69.7	69.9	71.2

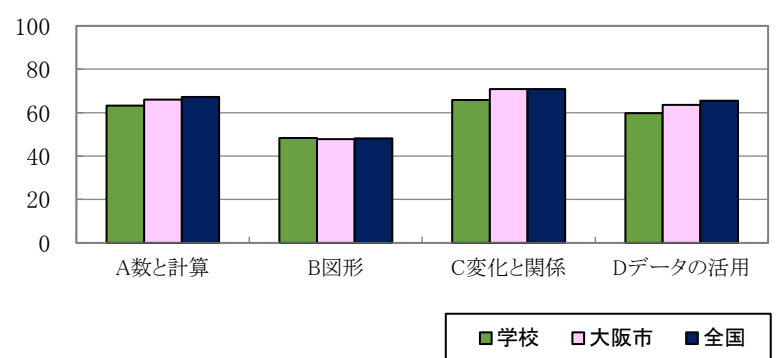
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	63.3	66.1	67.3
B 図形	4	48.3	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	65.9	70.8	70.9
D データの活用	3	59.8	63.6	65.5

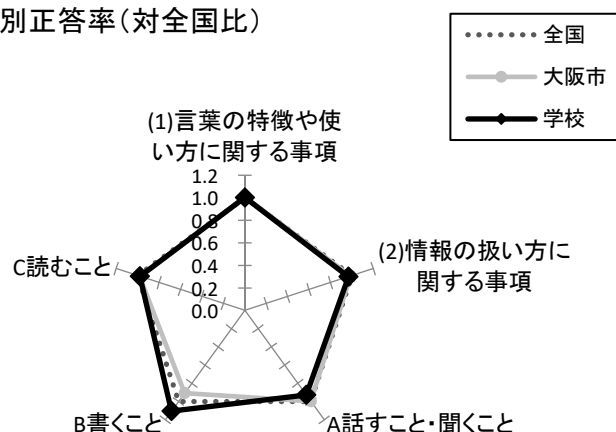
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



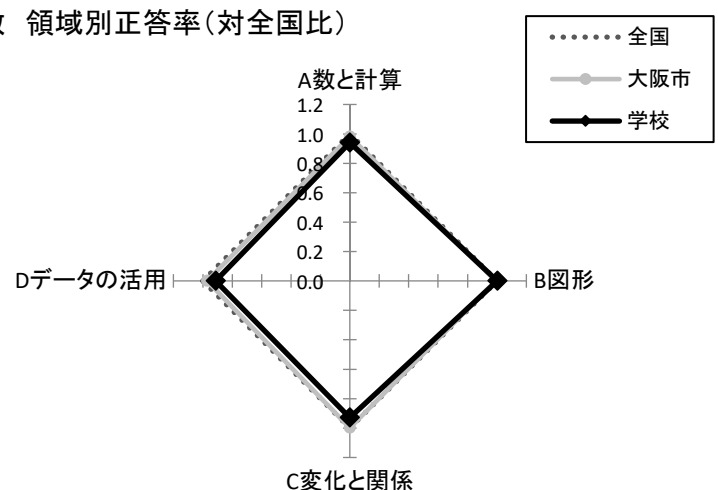
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)



児童質問紙より

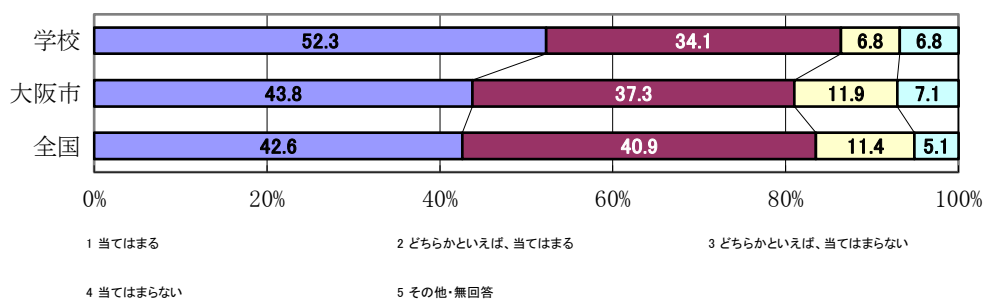
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

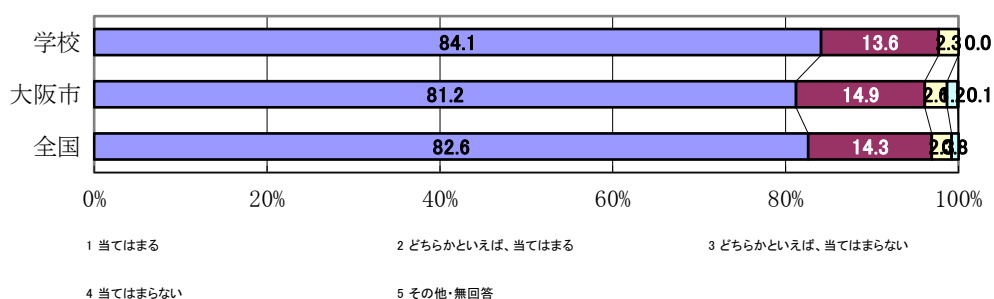
4

自分には、よいところがあると思う



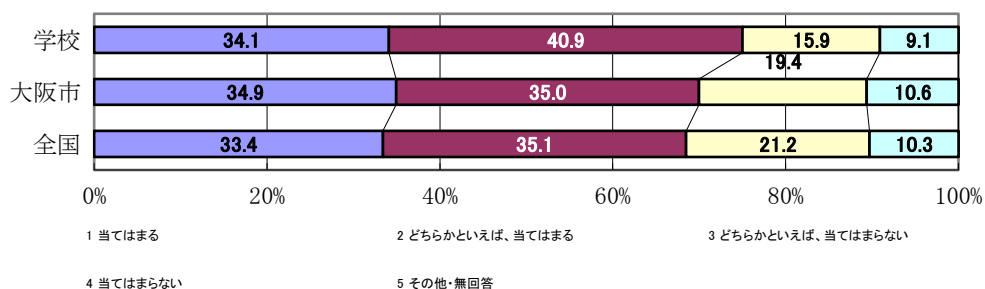
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



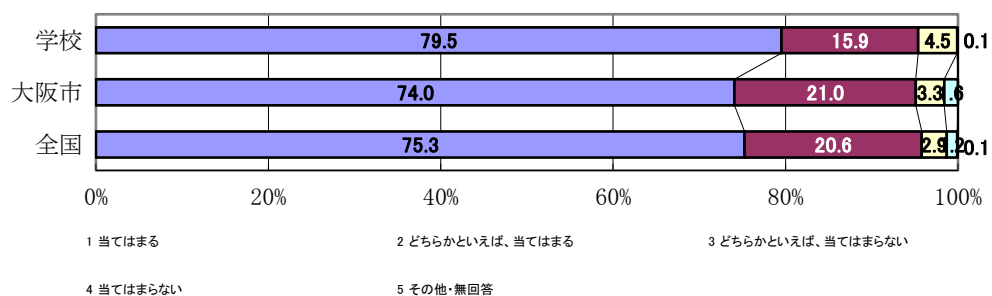
10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる



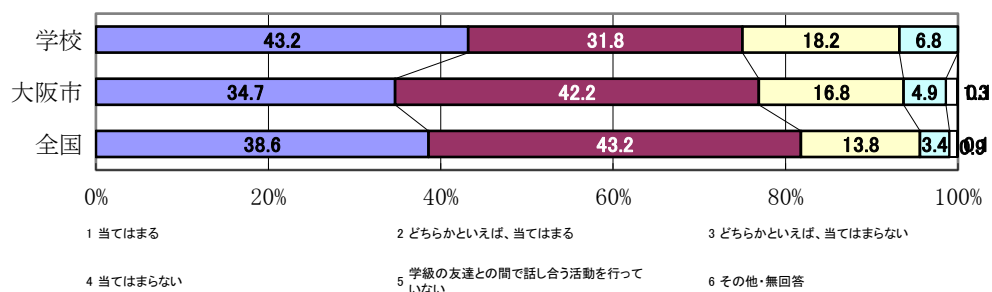
11

人の役に立つ人間になりたいと思う



36

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

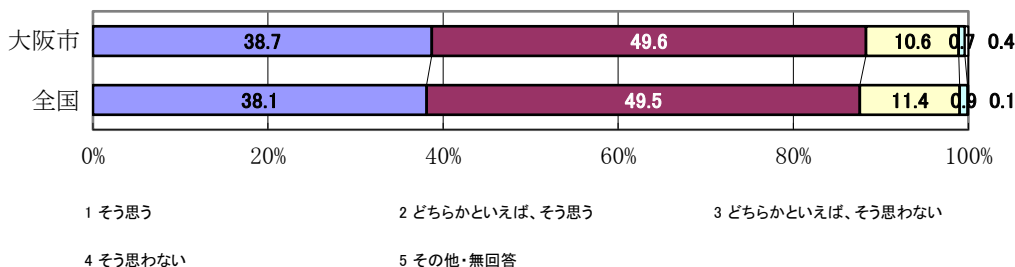
質問番号

質問事項

9

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いている

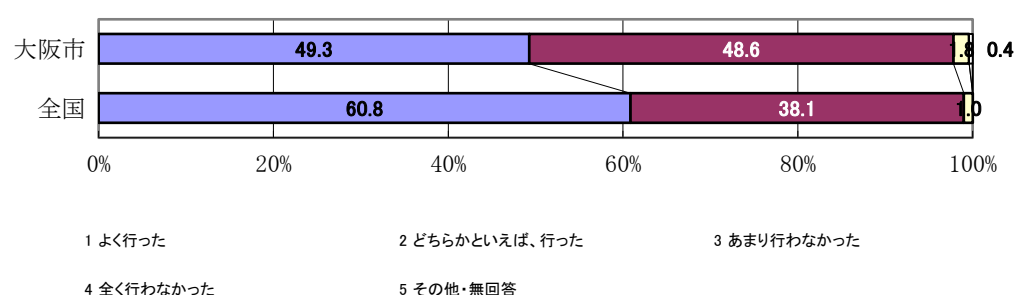
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

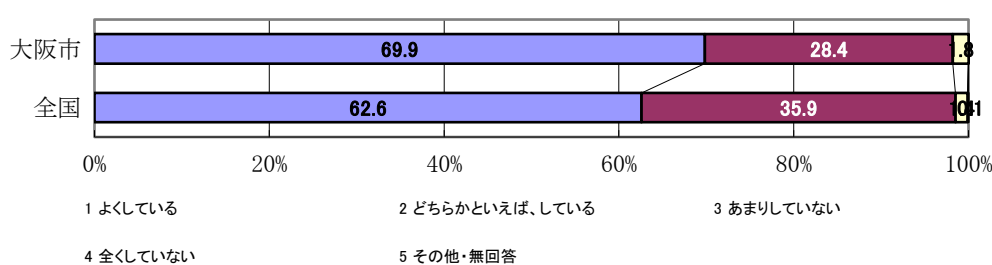
学校 「よく行った」を選択



22

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

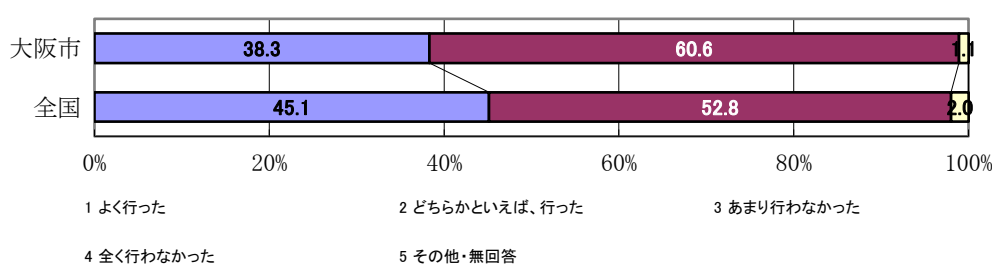
学校 「よくしている」を選択



48

調査対象である第6学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していた

学校 「よく行った」を選択



52

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

